

将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)とアプローチ

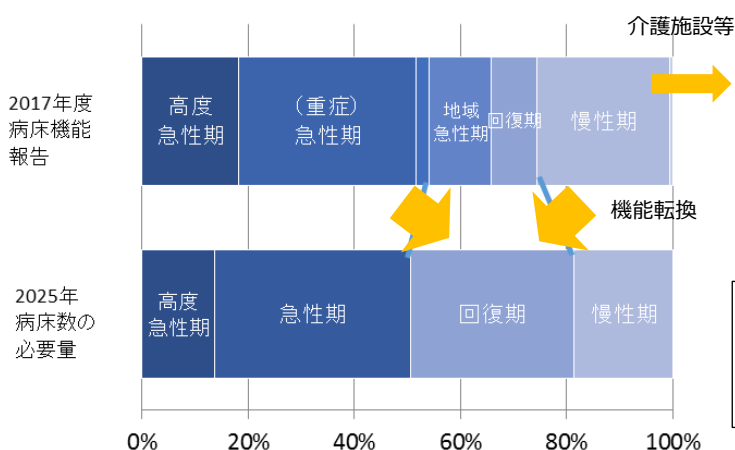
●将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)について

将来のあるべき姿の到達度を測定する指標として、「将来にむけて回復期への転換が必要な病床」を設定し、今後、地域医療構想の進捗状況をモニタリングする。

病床機能報告の最終集計から、病床数の必要量における「回復期機能を担う病床数の確保」には、他の病床機能から約 10%程度同機能への転換が必要と推計

○病床機能報告(2017年度)と病床数の必要量(2025年)の比較

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	合計	【備考】未報告等	
			(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床機能報告(病床数)	2017	5,828	15,279	10,752	781	3,746	2,809	8,013	193	32,122	76
病床機能報告(割合)	2017			33.5%	2.4%	11.7%	8.7%	24.9%	0.6%	100.0%	
病床数の必要量(割合)	2025					30.7%	18.6%			100.0%	
【参考】病床数の必要量(2017年度報告病床数に対する病床数)	2025	4,392	11,883			9,869	5,978			32,122	
【参考】病床数の必要量(2013年の需要をベースとした病床数)	2025	4,745	12,838			10,662	6,458			34,703	



**病床機能報告(地域急性期+回復期)
と病床数の必要量(回復期)の
割合の差 10.3%**

【参考】将来に向けて回復期への転換が必要な病床
6,759 (2017年度報告病床数総計) × 10.3%
= 約 3,300 床

【参考】病床の介護施設への転換が「病床数の必要量」に及ぼす影響

○2017 年度病床機能報告における介護療養病床（430 床）が介護医療院等へ転換した場合の病床機能報告（2017 年度）と病床数の必要量（2025 年）の割合の比較は下記のとおり。

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	合計	【備考】 未報告等	
			(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床機能報告(病床数)	2017	1,267	2,744	1,988	0	756	517	1,898	70	6,496	1
病床機能報告(割合)	2017	19.5%	30.6%	0.0%	11.6%	8.0%	29.2%	1.1%	100.0%		
病床数の必要量(割合)	2025	11.5%	35.4%			26.4%	26.8%		100.0%		
【参考】病床数の必要量(2017年度報告病床数に対する病床数)	2025	744	2,299			1,714	1,739		6,496		

【参考】
病床機能報告(地域急性期+回復期)
と病床数の必要量(回復期)の
割合の差 10.0%